

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2~4)
 - 1 就農に向けた支援
 - 2 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修
 - 3 さといもの収量調査
 - 4 かんしょの収量調査
 - 5 9月期子牛せり市
 - 6 宮崎中央家畜市場子牛品評会
 - 7 7月播種ソルゴーの収量調査
 - 8 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会
 - 9 大久保小学校お茶育教室
 - 10 露地日向夏定点調査
 - 11 イチゴの高温対策BS資材実証ほ調査
 - 12 JAみやざき宮崎中央地区本部国富支店ピーマン青年部研修会
 - 13 NAMAHAAGEダリア視察研修
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P5~6)
 - 1 宮崎中央地域農業再生協議会担い手部会の農業研修生巡回
 - 2 JAみやざき宮崎中央地区本部胡瓜部会栽培講習会
 - 3 JAみやざき宮崎中央地区本部高岡胡瓜研究会定例会
 - 4 露地野菜での研修生受入体制調査
 - 5 水田ゴボウ実証展示ほの設置
 - 6 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会
 - 7 有機露地ナスほ場における害虫・天敵調査
 - 8 キャベツ栽培基礎講習会
 - 9 バイオ液肥を活用した試験的栽培
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P7~8)
 - 1 JAうまいこめづくり研究部会の実績検討会
 - 2 JAみやざき宮崎中央地区本部トマト部会栽培講習会
 - 3 極早生温州みかん日焼け果対策展示ほ調査及び検討会
 - 4 鳥獣重点現地支援地区における被害防止対策研修会
 - 5 宮崎市SAP会議佐土原支部役員会
 - 6 宮崎市SAP会議佐土原支部経営研修会

I 管内農業・農村の主な動き

1 就農に向けた支援

就農相談を2名、就農計画検討会を3名に対して実施しました。

就農相談では、品目の特性が把握できているか、長期的な経営プランがあるか、相談者への質疑を通して確認し、意識するよう促しました。

また、就農計画検討会では、普及センターから計画に記載のある数値の根拠や、就農に向けた準備状況を確認しました。就農予定者からは、長期的な経営を見据え、資金繰りを意識する様子が見られました。

2 令和8年度宮崎方式営農支援体制中部地区農業者研修

新規就農希望者を主な対象として新規就農基礎研修を実施しています。

10日、「農業における税」と題し研修を行い、13名が受講しました。講師の税理士から、営農する上で知っておくべき税の知識について、丁寧に分かりやすく説明がありました。

17日、「農業用機械のメンテナンスと農作業安全・農業用ハウスの基本構造と台風対策」について研修会を実施し、19名が受講しました。農作業安全、刈払機やトラクターの取扱やメンテナンス方法について農協担当者や農業機械メーカー担当者から説明を受けた後、農業用ハウスの構造や台風接近時の被害を抑えるためのチェックポイントや対処法についてハウス施行業者より説明を受けました。

いずれも受講生の関心が高い内容であり、今後の自身の経営に活かそうと熱心に学修していました。



【農業用機械のメンテナンス研修】

3 さといもの収量調査

14日、綾町の2ヶ所のほ場で関係機関と調査しました。

1ヶ所目は、さといも（石川早生）の優良種芋の現地適応性を確認するための展示ほです。

2ヶ所目は、「湛水栽培」の実証ほで、さといもの種芋は県内での供給体制が不十分で、県外からの入手も難しく必要量を確保できないため、十分な量の優良種芋を確保する目的で設置しました。今回は、各区ごとに収量、芋の縦横の長さ等を調査し、湛水栽培の方が慣行栽培と比較し収量が多いようでした。

今後は得られたデータを詳細に集計・分析し、地域での適応性を検証します。そして、将来的には種芋採種圃場の設置を目指して活動していきます。



【株張調査】

4 かんしょの収量調査

1日、佐土原町の砂地に設置している展示ほを調査しました。

比較的乾燥に強いと言われているかんしょですが、近年の高温乾燥により活着不良や収量減少が多発しています。この問題を解決するため、土壌の保水性を高める効果のある資材

(ZEB) の効果を検証しました。

収量や、芋の縦横の長さ等を調査しました。

達観では差はわかりませんが、今後、得られたデータを詳細に分析し、高温対策として有効か、また現地への普及が可能であるか検討していきます。



【収穫した芋の様子】

5 9月期子牛せり市

9日と10日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計552頭（雌：244頭、去勢：308頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「腹作りを考える」と題して講習を行いました。

子牛平均価格（税込）は、雌827千円（前回比5千円安）、去勢887千円（前回比24千円安）、総平均861千円（前回比16千円安）という結果になりました。



【講習会に参加する生産者】

6 宮崎中央家畜市場子牛品評会

14日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による10月期子牛せり市に向けた9月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、国富支店の河野幸一郎氏の「かなた」号（美津秋産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長の講評では「発育良好で体の幅、深さなど体積に優れ、体上線と体下線が充実している。特に後幅からの幅、張りがあり、骨じまりが良く被毛の質に優れていた」との評価がありました。



【優等1席「かなた」号】

7 7月播種ソルゴの収量調査

9日、国富町で水田における春夏飼料作栽培の可能性について検討するため、調査を実施したところ十分な収量が確保されていました。

また、基肥に低コスト肥料を施肥した区と、慣行肥料を施肥した区の比較をしたところ、低コスト肥料でも慣行と遜色ない収量を得ることができました。

引き続き、栄養成分分析や再生状況を調査していきます。



【水田に作付した短尺ソルゴ】

8 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会

26日、令和9年8月に北海道で実施される第13回全国和牛能力共進会への出場に向けて、生産者の気運醸成と飼養管理に係る進捗確認を行うため都城地域家畜市場で開催され、JAみやざき宮崎中央地区本部から代表牛10頭が出場しました。

審査の結果、第3区若雌1で高岡町の伊藤剛さんの「はる」号（美津秋産子）が優等5席を受賞しました。



【出場準備中の生産者と技術員】

9 大久保小学校お茶育教室

15日、宮崎市大久保小学校にて宮崎市・清武町茶業振興会によるお茶育教室が開催されました。

清武町のお茶農家が講師を務め、主体となって授業を行いました。

その中で宮崎市やJA宮崎と協力し、お茶の種類の説明やお茶の淹れ方体験を行いました。お茶の魅力や地元茶産業の重要性を学んで頂けたことと思います。

今後も地域の皆さまと連携し、お茶の普及および地元産業の活性化へ向け支援してまいります。



【お茶育教室】

10 露地日向夏定点調査

2日、宮崎市及び綾町の園地で令和8年度の調査を開始しました。

毎年、調査を実施している宮崎市清武町（2カ所）、高岡町（1カ所）、綾町（2カ所）の園地にて、1ヶ月毎に果実肥大、果実品質（糖度、クエン酸）を調査しています。

営振協果樹技術員会と連携して調査を実施し、結果を基に摘果や適期収穫へ向けた支援をしていきます。



【定点調査】

11 イチゴの高温対策BS資材実証ほ調査

25日、調査を行い、JAみやざき宮崎中央地区本部南宮崎技術員会員であるJA指導員10名、普及員3名が参加しました。BS資材は4種類（別途対照として液肥）を用いました。

葉面温度の推移及び硝酸態窒素含有量について調査し、散布後7日後、14日後にも継続して調査します。

今回は、JA若手指導員の研修を兼ねており、調査や検証の方法の検討や実施を通じ、客観的に作物の状況を把握できる能力の向上を図っていきます。

12 JAみやざき宮崎中央地区本部国富支店ピーマン青年部研修会

3日、JA国富支店営農センターにおいて開催され、生産者約18名、関係機関3名が参加しました。

講師として、総合農業試験場の黒木副場長を招き、次作に向けた取組について研修が行われました。普及センターからは、定植初期の水管理の重要性や目安について説明しました。

研修会後の情報交換会では、生産者、関係機関で活発な意見交換が行われました。

今後もピーマンの生産性向上に向けた取組を支援していきます。



【青年部研修会】

13 NAMAHAAGEダリア視察研修

17、18日、秋田県において開催され、宮崎県からは生産者3名と関係機関4名、秋田県からは関係機関・生産者・ダリア育種家が17名参加しました。

国際ダリア園や生産者現地ほ場、秋田県試験場で栽培されている新たなNAMAHAAGEダリア候補の品種や今までに発表された品種の生育や特性を確認しました。

その後の情報交換会では、生産者、育種家、関係機関で活発な意見交換が行われました。

中部管内では、今年度もNAMAHAAGEダリア新品種の現地適応性を調査し、支援を行います。



【ダリア視察研修】

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

【重1・日本一のきゅうり産地維持のための生産性と収益性の両立】

1 宮崎中央地域農業再生協議会担い手部会の農業研修生巡回

16日、農業研修生2名（施設きゅうり、トルコギキョウ各1名）に対してJAおよび市担当者とともに、派遣研修先である先進農家を訪問し、研修状況の確認を行いました。

研修生から先進農家から多くを学ぼうと意欲的に取り組んでいる様子がうかがえました。

今後も、関係機関と連携して毎月巡回を実施し、状況確認を行う予定です。



【施設きゅうりで研修中】

2 JAみやざき宮崎中央地区本部胡瓜部会栽培講習会

1日、3日、田野支店及び南宮崎営農センターにおいて開催し、生産者計30名が参加しました。

主にアザミウマ及びコナジラミ対策について講習会を行い、あわせてきゅうりの新規病害虫の情報を提供しました。

今後も継続して病害虫対策の啓発及び支援を行っていきます。



【講習会】

3 JAみやざき宮崎中央地区本部高岡胡瓜研究会定例会

29日、高岡支店会議室において開催し、生産者16名、関係機関2名が参加しました。

定例会では、会長挨拶後に、JAから定植後から厳寒期までの栽培管理のポイントについて説明がありました。その後、普及センターからきゅうり黄化えそ病対策について説明をしました。生産者、関係機関で活発な意見交換が行われました。

今年度もきゅうりの生産支援を行っていきます。



【定例会】

【重4・マーケットインに基づく土地利用型営農の振興】

4 露地野菜での研修生受入体制調査

3日、管内の生産法人1戸に対して、研修生受入体制や将来的なおのれん分けの可能性について、聞き取りを行いました。

農地や機械の確保など、露地野菜で独立就農する際の課題となる意見が出されましたが、自社の従業員が独立を希望した場合は応援したいといった前向きな意見も出されました。

今後も、露地野菜での研修生受入体制について検討を進めていきます。

5 水田ゴボウ実証展示ほの設置

15日、跡江、下小松地区において、早期水稻裏作としてゴボウの播種を行いました。

令和7年度から水田ゴボウの試験栽培を実施しており、令和8年度は前回の反省を踏まえて播種時期とマルチの色の改善を試みました。

今後も継続して巡回を行い、収益性や作業労力を検討していきます。



【水田ゴボウの播種作業】

【重5・有機農業の拡大による環境保全型農業の推進】

6 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

25日、（合）アヤオーガニックワークス事務所に開催され、関係者5名が参加しました。研修生の近況や実習・座学の進捗、国庫事業を活用した施設整備、令和9年度の事業予定等について協議しました。

普及センターは同スクールで基礎栽培技術の講義を担当しており、9月はキャベツの栽培研修会を行いました。

今後も関係機関と連携して支援を継続します。

7 有機露地ナスほ場における害虫・天敵調査

14日、24日、綾町のナスほ場で調査しました。

バンカー植物（ソルゴー、バジル、マリーゴールド）をナスほ場の周囲に植付け、害虫であるミナミキイロアザミウマなどの飛来抑制と天敵昆虫であるヒメハナカメムシなどの定着促進を行い、化学農薬を使わずに傷果を軽減することを目的としています。

今回の調査結果では害虫による傷果の発生は、慣行区と差はありませんでした。

今後も調査の継続により効果を確認し、普及・推進へ向け支援していきます。



【天敵調査】

8 キャベツ栽培基礎講習会

2日、綾町の綾オーガニックスクールで開催し、3名が参加しました。

当日は、キャベツの栽培管理や黒腐病や菌核病などの病害虫対策について具体的な説明を行いました。

参加者からは、「栽培の要点や病害虫対策を具体的に把握できたことで、今後の栽培に対する不安が解消され、実践への自信につながった」と前向きな感想が寄せられ、技術習得に対する意欲の向上が図られました。

今後も、受講生の確実な栽培技術の習得に向け、定期的な講習会を継続して実施していきます。



【キャベツ基礎栽培講習会】

9 バイオ液肥を活用した試験的栽培

28日、作付前の綾オーガニックスクールほ場で関係機関9名が参加し、バイオ液肥の散布作業を実施しました。

今後綾町で開発されるバイオ液肥の活用を見据えた液肥散布作業の試行として、新富町の生産者が生産するバイオ液肥を使用し、現地実証を行います。

今後は、ニンジン、ホウレンソウ、ブロッコリーを作付けし、発芽調査や生育調査などの各種調査を行い、バイオ液肥の効果検証を進めていきます。



【バイオ液肥の散布】

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 JAうまいこめづくり研究部会の実績検討会

30日、普及センターで、特別栽培米生産に取り組む部会員約30名を対象に、本年産の収量や品質の実績状況等の説明を行いました。

普及センターとJAより、収量や等級検査及び食味分析データをもとに、今年の特徴や課題について説明を行いました。

部会員からは、カメムシの耕種的防除方法などの質問があり、予察情報や自分の水田の観察を元に適期防除に努めるとともに畦畔の草刈時期等についても助言しました。

今後も、講習会や現地指導を行い、収量品質の安定に向け支援していきます。

2 JAみやざき宮崎中央地区本部トマト部会栽培講習会

16日、宮崎南営農センターにて開催され、生産者20名、関係機関6名が参加しました。

普及センターからは、定植直後のコナジラミ対策と、近年管内でも発生が確認されているトマトキバガ対策について、総合的な防除の視点から説明を行いました。

今後もトマト類の防除対策支援、安定生産に向けて関係機関と連携し、支援を行います。

3 極早生温州みかん日焼け果対策展示ほ調査及び検討会

2日、宮崎市木花地区で開催し、中部地区果樹技術員会の関係機関から14名が参加しました。

近年、高温等の影響により、極早生温州みかんの日焼け果が増加しているため、摘果方法の違い（表層摘果、表層上部摘果）による日焼け果抑制効果を確認するために設置した展示ほを調査しました。調査時の印象では、慣行摘果と比較し、日焼け果が減少しているようでした。

今後、今回の調査結果を分析し、日焼け果対策の検討を行います。



【展示ほ調査】

4 鳥獣重点現地支援地区における被害防止対策研修会

16日、田野町堀口地区で開催され、関係者22名が出席しました。

堀口地区は、令和7年度から令和9年度まで、段階的に複合柵を設置する予定としており、今回の研修では、防護柵設置後の管理のポイントに係る室内研修と、令和7年度に設置した柵の見回り点検を実施しました。

参加した生産者からは、「令和7年度に設置した柵の反省点を踏まえて、令和8年度以降のルートを検討していきたい」との感想がありました。

今後も鳥獣被害防止対策特命チームと連携しながら、適切な鳥獣被害防止に取り組む農村づくりの支援をしていきます。



【複合柵の見回り点検】

5 宮崎市SAP会議佐土原支部役員会

28日、役員5名が参加し今後の研修内容を検討し、11月に病害虫防除の研修会を開催することとなりました。

また、普及センターより役員へ経営に関する10分講座（第2回）を合わせて行いました。減価償却や勘定科目の付け方を解説し、SAP所有の機械情報を整理しました。実際に減価償却費の計算や勘定科目の割り振り演習を行うことで参加した役員の理解が深まり、収支決算に向け意識の高まりが見られました。



【佐土原SAP会議役員会】

6 宮崎市SAP会議佐土原支部経営研修会

27日に1名、28日に2名の親元就農者へ経営研修会を開催しました。

青色申告決算書の見方や経営分析ワークを行い、活発な質疑が交わされました。普段決算書を見る機会がないため分析に戸惑う場面もありましたが、情報の整理から取り組み、自ら考え学ぶ真摯な姿勢が見られました。

今後、数字に基づく経営視点を養っていくことが期待されます。



【経営分析ワーク】

